

# 教習所と介護2本柱

オフアサポート社長（宮崎市） 服部 幸雄さん

第3種郵便物認可

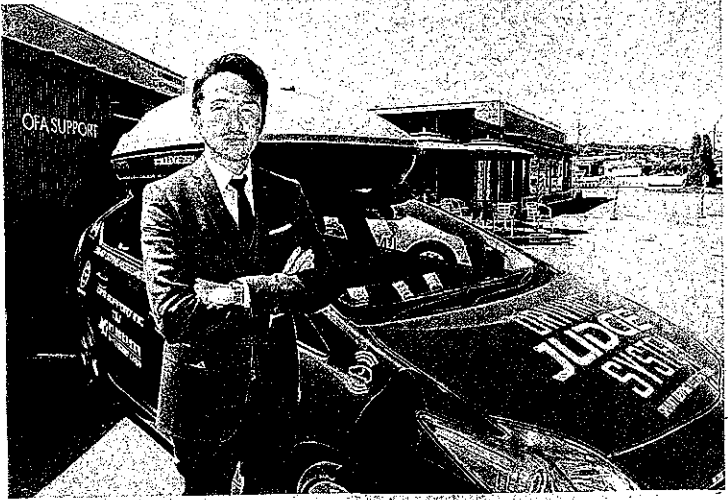
29歳で自動車教習所を立ち上げ、介護事業との2本柱で業容を着実に拡大してきた。2016年は開発したAI型自動車運転評価システム（SDAP）が高齢者による交通事故増加という社会問題の解決や新市場創出につながるという点などの成長期待企業に、今年2月には中小企業庁の新連携事業計画にそれぞれ認定された。官民の強力な追い風を背に「IPO（新規株式公開）へ頑張りたい」と意気込む。

## 「新規株式公開」目指す

働きながら自動車教習所指導員の資格を取得。06年に南九州自動車教習所（同）を立ち上げた。教習車は1台5万円の中古セダンが二つ。複数の教習所が共同利用するコースを借りて指導した。経営未経験の見切り発車だったが、ホームページなどで低料金や都合の良いときに受講できる便利さをアピール。教習生の数を増やしていった。08年7月にオフアサポートを設立し、介護事業へ参入。少子高齢化で高齢者向けビジネスにチャンスを感じたからだ。介護事業を展開する知人からノウハウを学び、翌月には福岡市に訪問リハビリマッサージの拠点を開設。福岡に縁もゆかりもなかったが、大阪での経験を生かして専門の営業部を置くこと、ケアプランを作成するケアマネジャーを積極的に訪問してサービスのメリットを説いて、利用者数を伸ばした。

10年7月には共同利用していた教習所の敷地を取得。介護事業も九州各地に拠点を置くなど事業規模を拡大した。さらに二つの事業を融合させた新たな試み「カーリハ」を14年にスタート。要介護者が折り紙や書道で機能回復を励むように、教習所で専門の指導員と一緒に運転に取り組んでもらう。全国初のサービスで、数カ月後には県内の病院から「患者が運転再開可能か客観的評価を得るため利用したい」と相談があった。高齢ドライバーによる事故増加が社会

美容室を営む母の影響で、高校卒業後は美容師になるため大阪へ。しかし、約1年で教材販売の営業マンへ転身。社内表彰されるほど頑張りが、成績も良かったが過労で入院。21歳で宮崎へ戻った。自動車や携帯電話の販売会社で営業を続け、24歳で結婚。もつと身持ちの堅い仕事を」と自動車学校へ転職した。中学2年で「なくなった父が自動車学校に勤務。その思い出が背中を押した。宮崎ドライビングスクール（宮崎市）へ入り、



自動車教習所や介護事業などを手掛けるオフアサポートの服部幸雄社長

みやびス×クロコで、宮崎日日新聞がインターネットで配信している経済電子マガジン「みやびス」の中から注目記事を紹介しています。

はっとり・ゆきお 4人兄弟の四男で、母と兄2人が自営業だったこともあり「会社勤めより独立を選んだのは遺言。趣味は磯釣り。1級小型船舶操縦士の免許を持ち、社内には釣り同好会もある。宮崎市出身。本庄高卒。42歳。

高年齢ドライバーによる事故増加が社会